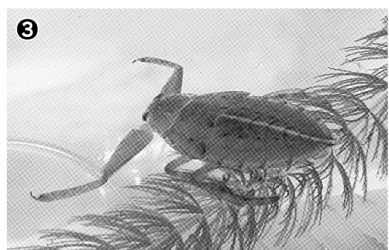
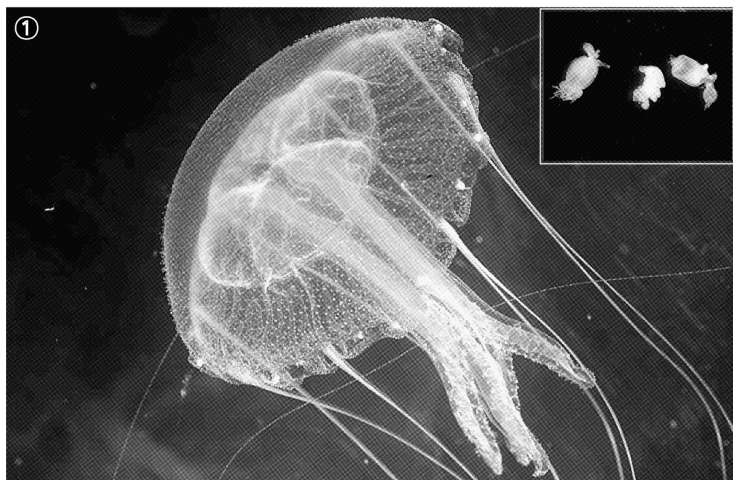


①かこしま水族館の水槽でポリプ（右上）が偶然見つかり、繁殖に成功したアマガサクラゲ②バックヤードで育てられているシノビドジョウ③タガメの子ども。たくさん食べるので餌の調達が大変です



かこしま水族館では500種以上の水の生き物が飼育されています。多くは卵を産んだあと子育てはしません。その卵を人が手助けして繁殖させることがあります。なぜ、水族館で繁殖を行うのか。それにはいくつか理由があります。まず、新たに採集しなくてはなりません。生き物は命を失うことができれば、自然への影響を少なくすることができます。海外から譲り受けたり、偶然見つけたりした生き物の展示継続にも役立ちます。パリ水族館からやってきたクラゲのキャンボンボールジェリー



## 繁殖 子育ては苦勞の連続

はその代表例。深海のアマガサクラゲは、水槽内でそれとは知らずに見つけたポリプ（イソギンチャクのような姿をしたクラゲの子ども）から繁殖に成功しました。絶滅の危機から守るのも目的のひとつです。南西諸島に生息するシノビドジョウは、すみかとなる田んぼや水路が失われ数が減少しました。いつか野生復帰できることを願って、バックヤードで育てています。子どもの世話をするのは簡単ではありません。体がとても小さく、見失ってしまう恐れがあります。餌も大人とは違います。イカは生きているエビなどしか食べません。水生昆虫のタガメも、生き餌しか食べない上に大食漢なので大変です。手が掛かる分、水族館生まれには特別な思い入れがあります。水槽を見つめる飼育係に声をかけてみてください。子育ての苦労話が聞けるかもしれません。（展示課魚類展示係主任・築地新光子）